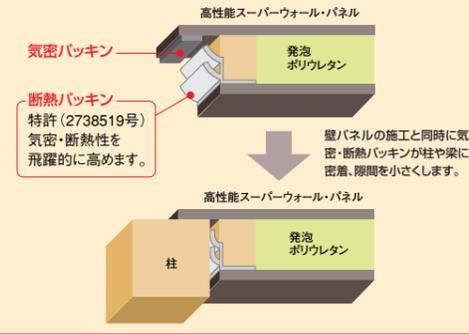


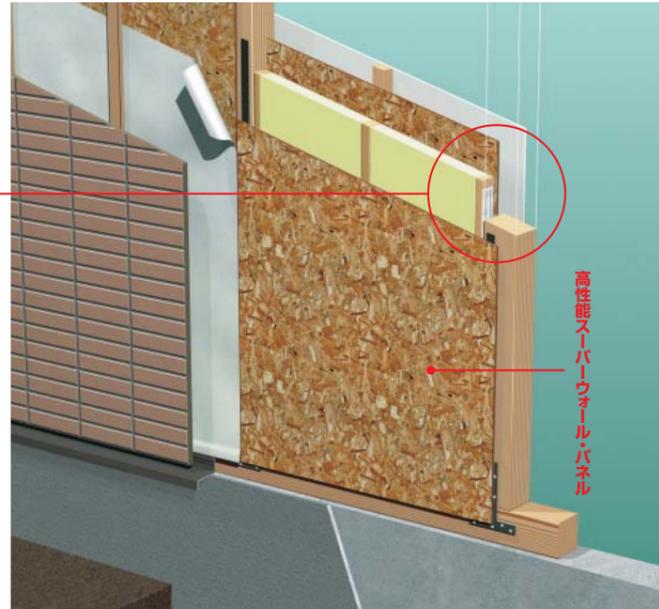
一年中快適な温度を保つ SW独自の気密・断熱構造

グラスウールの約2倍の断熱性能をもつ発泡ポリウレタンを充填したSWパネルを柱や梁に密着。パネルの気密パッキン、断熱パッキン(特許)が気密・断熱性を高めます。

パネルの特長 (気密パッキン・断熱パッキン)



●うすくて高性能な発泡ポリウレタン



※仕様は地域・地盤の状況によって異なります。仕様によりイラストと異なる構造となる場合があります。

熱の出入りが激しい窓まわりも 高断熱部材でしっかり保温します

玄関ドアやサッシなどは、基材のアルミと断熱性にすぐれた樹脂素材(アルミの1250倍)の複合構造。アルミの特長をそのままに、樹脂が窓まわりの激しい熱移動をしっかり抑えます。また、基礎部分の熱移動には、基礎の内側または床での断熱施工でしっかり対応します。

〈窓まわりの断熱構造〉

- 断熱・防露サッシ「シンフォニーマイルド」



3.49W/(m²・K)以下(3.0kcal/(m²・h・℃)以下)
アルミ+樹脂の複合構造で高い断熱性能を発揮します。
※地域により仕様は異なる場合があります。

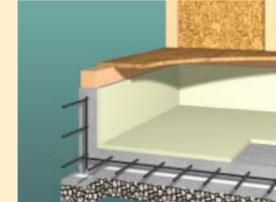
- 断熱玄関ドア「ホルトNX」



3.49W/(m²・K)以下(3.0kcal/(m²・h・℃)以下)
ドアに組み込んだ断熱材が、高断熱性能を発揮します。
※地域により仕様は異なる場合があります。

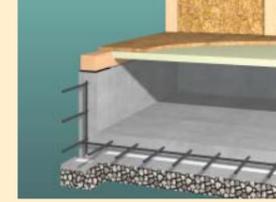
〈基礎部分の断熱構造〉

- 基礎断熱



基礎に断熱材を施工します。
※基礎の仕様は地域・地盤の状況によって異なります。

- 床断熱



床の直下に断熱材を入れ、建物の断熱性能を高めます。
※基礎の仕様は地域・地盤の状況によって異なります。

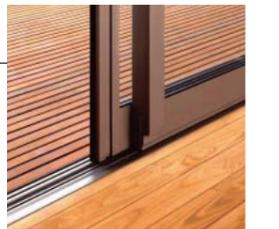
ユニバーサルデザインで より安心・安全な家づくり。

意外に多い家庭内での事故。高齢者やお子様の安全はもちろん、ご家族にとって安心して暮らせる家づくりをご提案します。

段差のバリアフリー

Level-free

- 「和室へ入る時に敷居でつまづく…」を解消
- 「浴室の入り口段差で転倒する心配…」を解消
- 「車椅子だと部屋間のわずかな立上がり」が気になる…」を解消



[ノンレールサッシ] OPTION
レールの立ち上がりがないので、つまづきにくく車椅子でも出入りがスムーズです。

操作のバリアフリー

Power-free

- 「年をとってくると、大きな窓を開けるのも大変…」を解消
- 「小さな子供が窓にうっかり手をはさまないか心配…」を解消
- 「買い物帰りで手が塞がっているとドアを開けるのも一仕事…」を解消

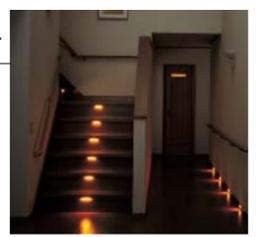


[アシスト把手] OPTION
引違い窓のサッシを開ける時の力を40%軽減。お年寄りやお子様もラクに開け閉めできます。

明るさのバリアフリー

Light-free

- 「夜間の廊下はトイレまで行くのも不安…」を解消
- 「夜中にトイレへ行った後、目が覚めて寝つけない…」を解消
- 「夜遅くに帰った時、玄関ドアのカギ穴が見つけにくい…」を解消

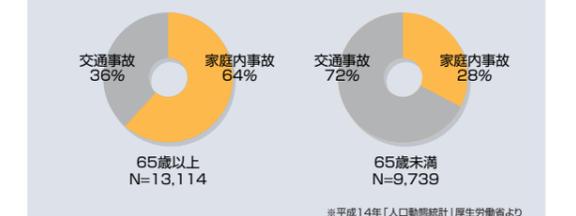


[スポット灯] OPTION
夜中にトイレに行く時など、眠気を醒まさないやわらかな光で足元を照らし安全に誘導します。

ワンポイント・アドバイス

●多発する家庭内事故への安全対策
家庭内では意外に多くの事故が起きています。ご家族全員の安全はもちろんですが、特に65歳以上の高齢者に対して、階段や浴室などでの転倒をはじめとする、家庭内事故を未然に防ぐ安全対策が求められます。

●交通事故と家庭内事故の死亡者数



SW工法住宅は「次世代省エネルギー基準」対応で、 地球温暖化防止に貢献しています。

住宅分野でのエネルギー消費に伴う 二酸化炭素(CO₂)の排出を削減

次世代省エネルギー基準とは、地球温暖化防止策の一環として、住宅におけるエネルギー消費に伴うCO₂排出削減を目的に設定された、現在の省エネ最高水準となる基準です(1999年3月公表)。省エネ効率向上を目指して、断熱性能、気密性能、通風・換気、暖房などについて基準値が設定されています。

●基準改正の主な目的



「次世代省エネルギー基準」対応住宅なら、 ひとつにも優しい快適な室内環境を実現

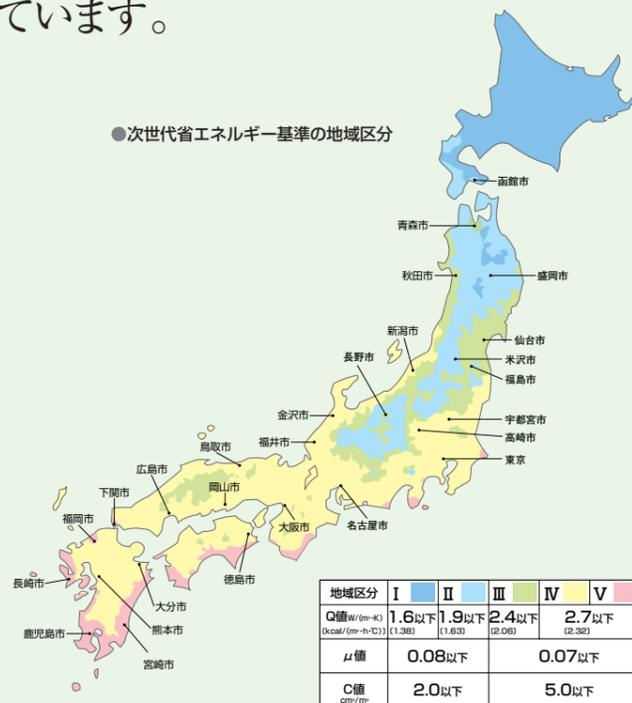
従来の新省エネルギー基準に比べて、気密性・断熱性がさらに向上した「次世代省エネルギー基準」。この基準に対応する住宅は、地球にやさしい省エネ住宅であるとともに、保温性能の大幅アップによって室内の上下・水平温度差を解消する、ひとつにも優しい健康配慮住宅と言えます。

省エネルギー基準 → 新省エネルギー基準 → 次世代省エネルギー基準

1980年策定	1992年策定	1999年策定
【住宅性能表示制度】 温熱環境-「等級2」 Q値:5.2W/(m ² ・K)	【住宅性能表示制度】 温熱環境-「等級3」 Q値:4.2W/(m ² ・K)	【住宅性能表示制度】 温熱環境-「等級4」 Q値:2.7W/(m ² ・K)

※Q値はIV地域の場合の数値
※「次世代省エネルギー基準」をクリアした住宅に対し、住宅金融公庫では最高250万円の割増融資を行っています。

●次世代省エネルギー基準の地域区分



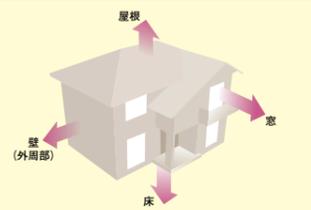
地域区分	I	II	III	IV	V
Q値 W/(m ² ・K) (kcal/(m ² ・h・℃))	1.6以下 (1.36)	1.9以下 (1.63)	2.4以下 (2.06)	2.7以下 (2.32)	
μ値	0.08以下		0.07以下		
C値 cm ² /m	2.0以下		5.0以下		

※地域区分は市町村単位になります。詳しくは当社とよく打合せの上、ご確認ください。

SW工法は断熱性能(Q値、μ値)・気密性能(C値) で次世代省エネルギー基準をクリア可能

Q値(熱損失係数)

Q値とは窓・玄関・床・壁・天井そして隙間などを通じて、住まいの内側から外へ逃げる熱が床面積1㎡あたりどれ程あるかを表した数値。この数字が小さいほど、断熱性に優れていることを示します。



μ値(夏期日射取得係数)

μ値とは建物が日射によって取得する熱量の割合。この数値が小さいほど、日射取得量が少なくなることを示します。日射に左右されるため、同じ建物でも地域と方位によって数値が変わります。



C値(相当隙間面積)

C値とは床面積1㎡あたりの住まいの隙間面積。数値が小さいほど隙間が小さく、気密性に優れていることを示します。



SW工法住宅は、気密測定を実施し、お客様の住まいの気密性能を確認いたします。(測定は数値をご確認いただくものであり、気密性能を保証するものではありません)